

2020年9月8日 スペースたんぽぽ学習会 講座番号 651

予 約 必 要

「朝鮮戦争の正体」

講師：孫崎享（まごさき うける）さん

日本の外交官、評論家。東アジア共同体研究所理事・所長。

満州国の奉天省鞍山市の生まれ。金沢大学教育学部附属高等学校を卒業。

東京大学法学部在学中に外務公務員上級職甲種試験（外交官採用試験）に合格。大学を中途退学し外務省に入省。外務省国際情報局長、駐イラン大使などを歴任。著書『戦後史の正体 1945-2012』（創元社）、共著『「対米従属」という宿痾（しゅくあ）』（飛鳥新社）他多数



今回「朝鮮戦争の正体」を書き、改めて、日本は1950年で「民主主義」と「自由主義」を根底から覆す国になったなと強く感じました。勿論自発的選択でなく、米軍に強いられることです。「警察予備隊」を国会審議することなく、「政令」で成立させました。1950年7月29日、日経新聞三面は次の出しで報道します。「報道界の赤色分子解雇」。この中で、各報道機関の解雇者数を次のように報じます。朝日 72、毎日 49、読売 34、日経 20、東京 9、放送協会 99、時事 16、共同 33。驚く数字です。朝鮮戦争は、多くの人命を奪い、朝鮮半島を荒廃の地にしましたが、38度を国境線とすることには、何の変化もありません。しかし米国と日本には明白な流れが定着しました。米国では軍需産業が根を下ろし、戦争を戦い続ける国にしました。日本では、自由主義と民主主義を抑制する「逆コース」が定着しました。そして、しばしば米国から「軍事的に貢献しろ」という要請がきて、国会を軽視し対応策を取ります。「日本と言う国がどういう国か」、そして「今日の国際社会がどういうものか」、それを理解するために、「朝鮮戦争とは何だったのか」「朝鮮戦争で何をもたらしたのか」を今改めて問う意義があると思います。

9月8日（火） 19時～21時（開場18時30分）

会場：スペースたんぽぽ 参加費（資料代含む）：800円（学生400円）

たんぽぽ舎のあるダイナミックビルの4階 JR水道橋駅西口から5分 水道橋西通りを神保町方面に向けて左折し、セブン11、グローバルスポーツ、GS跡地（セブン11）を過ぎて鉄建建設ビルを過ぎたら左折。

東京都千代田区神田三崎町2-6-2 tel 03-3238-9035 fax 03-3238-0797

Email: nonukes@tanpoposya.net URL: <http://www.tanpoposya.com/>

